

令和 6 年 12月24日	病虫害発生予報 1 月号	茨城県病虫害防除所
------------------	-------------------------------	-----------

農薬保管庫や防除器具の点検・整備を行いましょう！

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
イチゴ：アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類・・・・・・・・・・	1
促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・	2
促成トマト：黄化葉巻病（タバココナジラミ）・・・・・・・・・・	3
【その他の病虫害】	
イチゴ、促成ピーマン、促成トマト、促成キュウリ・・・・・・・・・・	3
○水稲におけるスクミリングガイの冬期防除対策について・・・・・・・・	4
【防除所レポート】	
令和 7 年版果樹病虫害参考防除例について・・・・・・・・・・	5
II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6	
最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの 「農薬登録情報提供システム」(https://pesticide.maff.go.jp/) で確認することができます。	
詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200 ホームページでは病虫害・フェロモントラップ・農薬関連情報がご覧いただけます。 https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/	
※病虫害の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病虫害の防除や 農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病虫害防除所等の指導機関にお問い合わせ ください。	



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生花率（本年値 1.2%、過去 8 年平均値 0.2%）、発生地点率（本年値 40%、過去 8 年平均値 9%）ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、花をよく観察し、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② アザミウマ類発生前から青色粘着トラップを 10a あたり 100～400 枚設置すると密度抑制に有効である。
- ③ 薬剤散布は、アザミウマ類の寄生部位である花にかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

（令和 6 年 12 月 2 日発表 病害虫速報 No. 10 参照）

2. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生葉率（本年値 7.2%、平年値 2.5%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 20%、平年値 17%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アブラムシ類は増殖が速く、多発すると葉や果実にすす症状を生じるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

(イチゴ 続き)

3. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生葉率（本年値 20.0%、平年値 14.3%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 80%、平年値 60%）は平年並～やや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
③ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。
④ 天敵導入圃場では、ハダニ類の生息状況等をよく観察し、必要に応じて天敵の追加放飼を検討する。

（令和6年12月2日発表 病害虫速報 No. 11 参照）

促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生花率（本年値 66.0%、平年値 48.7%）は平年並～やや高く、一花あたりの寄生虫数（本年値 2.6頭、平年値 4.3頭）は平年並～やや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
② 青色粘着トラップを10aあたり100～400枚設置すると密度低減に有効である。
③ 薬剤散布は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
④ 天敵を導入している場合は、影響が小さい薬剤を選択する。

促成トマト

1. 黄化葉巻病（タバココナジラミ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、発病株率（本年値 1.1%、平年値 0.1%）、発生地点率（本年値 33%、平年値 4%）ともに平年より高い。
- ② 12月中旬現在、一部圃場においてタバココナジラミ成虫の発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病株は伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する。
- ② 媒介虫であるタバココナジラミの施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、開口部に 0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置する。施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。
- ③ 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、タバココナジラミ成虫を捕殺する。
- ④ タバココナジラミは多発すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、タバココナジラミの薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑥ 黄化葉巻病耐病性品種は、ウイルスに感染しても発病は抑制されるが、感染株は本病の伝染源になるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。
- ⑦ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや少ない	12月中旬現在、平年並～やや少ない発生である。
ピーマン 促成	うどんこ病	発生量：やや少ない	12月中旬現在、平年よりやや少ない発生である。
トマト 促成	黄化病	発生量：やや多い	12月中旬現在、平年よりやや多い発生である。媒介虫であるコナジラミ類の防除を徹底する。
キュウリ 促成	うどんこ病	発生量：平年並	12月中旬現在、平年並の発生である。
	べと病		

水稲におけるスクミリンゴガイの冬期防除対策について

スクミリンゴガイ（通称ジャンボタニシ）は南米原産の淡水巻貝の一種で、田植え直後の軟らかい水稻苗を食害し、茨城県内においても一部の水田圃場で発生が確認されています。本種は土中に潜って越冬することから、圃場内の越冬密度を下げる対策が重要です。特に、暖冬の年は越冬する個体数が増加傾向となることから冬期の耕うんを行い、次作の発生を抑えましょう。

〔特徴〕

成貝は殻高が2～7cmで、稲や水路の壁等にピンク色の卵塊を産む。寒さに弱く、越冬個体はおおむね地表から深さ6cm以内に分布している。また、水路を伝って拡散・定着し、水路に隣接する圃場では取水時や大雨の浸冠水時等に侵入する。

〔次作に向けた対応〕

- ① 1～2月の土壌が乾燥して固い時期に、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転速度を速くし、土壌を細かく砕くように耕うんすることで、越冬個体を物理的に破砕するとともに低温の外気にさらす。複数回行うと効果が高まる。
- ② 本種未発生の圃場へ越冬個体の持ち込みを防止するため、使用後のトラクターを洗浄し、付着した泥を落とす。
- ③ 発生が多い圃場に隣接する水路や本種のピンクの卵塊を確認した水路においては、1～2月に泥上げを行い、越冬場所をなくするとともに越冬個体を低温の外気にさらす。
- ④ 水路の泥上げは地域全体で行うと効果が高まる。また、掘り上げた泥は、未発生圃場に持ち込まない。



スクミリンゴガイ成貝



スクミリンゴガイ卵塊

令和7年版果樹病虫害参考防除例について

果樹は栽培期間が長く防除体系が複雑です。果樹の病虫害防除は、病虫害の発生生態や発生状況をふまえて、効果的な防除時期や薬剤を選定して、体系的に行っていく必要があります。病虫害の薬剤耐性・抵抗性への考慮も必要です。茨城県果樹病虫害参考防除例編成会議では、県監修により果樹病虫害参考防除例（以下、防除例）を6作物7種類作成し、農薬適正使用および効果的防除を推進しています。令和7年版防除例の主な変更点を以下にまとめました。防除例を利用する際には変更点に十分注意しましょう。また、過度の農薬散布を防ぎ、農薬による危被害のリスクを下げるためにも、冬季の落葉処理や粗皮削り等の耕種的防除技術を活用するとともに、発生予察情報や圃場での病虫害発生状況を十分確認して、必要に応じた防除を行いましょう。

○薬剤の追加・削除等

令和6年版

品目	時期・記載場所	薬剤名等	変更の種類	変更理由
カキ	注意事項欄	－	薬剤の追加	①
クリ	注意事項欄（休眠期）	－	薬剤の追加	②
	展葉期（5月上旬）本欄	フェニックスフロアブル	記載位置の変更	③
	注意事項欄（6月下旬～7月上旬）	－	薬剤の追加	④
リンゴ	注意事項欄（7月上旬）	ダニゲッターフロアブル	薬剤の削除	⑤

令和7年版

変更後
トランスフォームフロアブル
石灰硫黄合剤
注意事項欄（展葉期）
ロビンフッド
－

○対象病虫害の記載変更

令和6年版

品目	時期・記載場所	対象病虫害	薬剤名等	変更理由
露地 赤ナシ 無袋	落花期（4月下旬）	赤星病、黒星病	スコア顆粒水和剤	⑥
			ベルクートフロアブル	

令和7年版

変更後の対象病虫害	変更後の薬剤名
黒星病 赤星病	スコア顆粒水和剤
黒星病	ベルクートフロアブル

※表に記載した令和7年版の果樹病虫害参考防除例は、令和6年10月1日現在の登録内容に基づいて作成しています。

変更理由は以下のとおりです。

【カキ】

①フジコナカイガラムシの防除効果を高めるために、トランスフォームフロアブルを記載しました。

【クリ】

②休眠期のカイガラムシ類防除のため、石灰硫黄合剤を記載しました。石灰硫黄合剤は越冬病虫害にも登録があります。

③クスサンの防除について、近年の発生状況からみて本欄記載から注意事項としました。

④カミキリムシ類防除の選択枝として、ロビンフッドを追加しました。

【リンゴ】

⑤ハダニ防除の追加散布について、ダニゲッターフロアブルの記載を削除しました。

【露地赤ナシ無袋】

⑥落花期の黒星病、赤星病防除について、農薬登録上の対象病害を薬剤ごとに記載しました。

なお、農薬の登録内容は変更になる可能性がありますので、農薬使用時には必ずラベルおよび登録変更に関するチラシ等を確認して適正に使用して下さい。

Ⅱ．今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 12 月 21 日から 1 月 20 日)

気象庁 (12 月 19 日 発表)

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)＞

[確率]	要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	50	40	10
	降水量	関東甲信全域	50	30	20
	日照時間	関東甲信全域	20	30	50

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

＜1 週目の予報＞ 12 月 21 日 (土曜日) から 12 月 27 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

＜2 週目の予報＞ 12 月 28 日 (土曜日) から 1 月 3 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 60%

＜3 週目から 4 週目の予報＞ 1 月 4 日 (土曜日) から 1 月 17 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類（FRAC コード、IRAC コード）の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。